

「ミドルクラス」と名乗ること ハービー・ジャキンスが1985年に書いた手紙より

一般的に、もちろん、「ミドルクラス」と呼ばれることは混乱をまねきますよね。あたりまえのことですが、常にたくさんの人たちがミドルクラスにはいあがったり、ミドルクラスから落ちたりしているので、誰がいつミドルクラスなのかという正確で厳密な定義はできません。

経済的にいえば、だれでも自分で価値を生み出すか、他人の生み出した価値で生きているか、時には同時に両方していることもあります。貧乏な農家でもそうかもしれません。重要なことは階級制度や人がどのクラスに属するかはっきりさせることではなく、階級制度を終わらせることです。このめちやくちやな状態から人を解放させて、人間性に満ちあふれた社会、だれでもが働く社会、創造する社会、管理する社会、そして自分の仕事で生計をたてる社会を作ることが重要です。

私の考えでは、どの階級のラベルが自分にぴったりかを探すのはあまり重要とは思いません。自分の様々な要素にいろんなラベルを貼れますが、すべてがぴったり合ったとしても、どのラベルも別に重要ではありません。

大切なのは世界を変えること、そのためのとりくみを進めることです。この観点からいえば、価値のある理念はワーキングクラスの理念しかありません。その他の階級の人でもワーキングクラスのアライ、場合によってはワーキングクラスのリーダーにもなれます。どの人でも自分の階級内の立場を超えることができます。

About labeling oneself "middle-class"

プレゼントタイム2006年7月号、53ページより

Harvey Jackins

翻訳 藤田尋美、エマ・パーカー

監訳 望月佐知子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。(翻訳文2007年。原文1985年)。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。